

使用状況知って節電

福井の市民グループ取り組み

契約電流見直しも

国内の全原発が停止し、県内でも昨年以上に夏場の電力逼迫が心配されている。特に、原発の依存度が高い関西電力管内は計画停電の可能性もあり、一層の節電が求められる。

節電の普及に取り組む福井市の市民グループ「ふくい未来ビレッジ・ネットワーク」の古石暁子事務局長(41)に、家庭での節電のポイント聞いた。(平井一敏)



節電のポイントを説明する古石暁子さん=福井市内で

古石さんは福井市内の集合住宅で暮らしている。間取りは3LDKで、夫と小学生の長女、長男の四大家族。家電製品も一通りそろっているのに、一カ月の電気料金はわずか二千円前後だ。

東日本大震災を機に、「電気の使い方を見直そう」と、電力会社との契約電流を十五割に引き下げた。一般家庭の三分の一以下だが、「消費電力の大きい電子レンジやオーブンの使い方にさえ気を

「電気の使用状況を知ることが節電の第一歩」。各家電に表示されている消費電力をチエックし、ワット数の大きいものの使用を控える。照明はワット数の少ない電球に交換。冷蔵庫は食材をしっかり整理し、開閉する頻度や時間を少なくする。テレビは節電モードにし、二回に一回はほつきで掃除する。夏場に使用頻度が高まるエアコンは、扇風機と併用し、涼しくなったら消すようにする。食事や風呂など、家族一緒に過ごす時間を増やすだけでも、節電になる。「ちよつとした工夫で、我慢せずに節電できる。家族や友人らとアイデアを出し合いながら、節電ライフを楽しんでほしい」

前年比7.6%減

昨年7～9月 県内の北電管内

県が昨夏に行った家庭の節電コンテストでは、県内全世帯数の約0.5%に当たる千三百二十三世帯が、八月の電気使用量を前年同期より10%以上減らすことに成功。削減率の平均は24.8%に達した。節電対策で最も多かったのは「電気ポット

家庭での省エネ策と効果

(省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典2012年版」から)

	1台の年間節約金額
エアコン ● 温度設定を27度から28度に ● 温度設定を28度で1日1時間短縮	670円 410円
照明 ● 白熱球(54W)を省エネ型の電球型 蛍光灯(12W)に替える	1850円
テレビ ● 32型(液晶)で1日1時間短縮	370円
冷蔵庫 ● 冷蔵強度を「強」から「中」に	1360円
温水洗浄便座 ● 使わない時にふたを閉める	770円
車 ● 加減速の少ない運転 ● アイドリングストップ	3980円 2360円
電気製品 ● 主電源を切り、プラグを抜く	2490円

家庭用電力量を見ると、昨年七月～九月の平均電力量は前年比7.6%減にとどまった。コンテスト結果を集計した福井市のNPO法人エコプランふくいの吉川守秋事務局長は「十年間の推移からは「節電の夏」だったと言えるほどの変化は見られない。それほど暑くない天候に救われた結果」と指摘。「すべての家庭が、少しずつでも着実に節電する知恵と実行力が必要」と話している。

